



# 冬

## 京都御苑の冬

ペリン リンデラウフ



冬の朝、建礼門を望んで



自然はわれらを われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連続。これが息の長い活動のシンボルマークに表現されています。

**発行人**  
〒602-0881 京都市上京区  
京都御苑3番地  
☎075-211-6364  
一般財団法人 国民公園協会  
京都御苑 加藤博之

**編集**  
白川書院

**監修**  
環境省京都御苑管理事務所  
本紙は再生紙を使用しています。

京都のような主要都市において、京都御苑(京都御苑)は珍しい位置関係にあります。もはや政治の中心地ではなく、外界から遮断された空気を保ち、その環境は京都の中で一番の公園であり、日本の大都市にしては稀な広大な緑地です。犬の散歩のための場所だという人もいれば、オフィスから離れて静かにランチを食べるため

の場所だという人もいます。末に野球をするための場所でもあるでしょう。私にとつての御苑は想像する場所です。御苑をどんだん歩くとつれて街の騒音は聞こえなくなり、近代的な建物は視界から消え、目の前には、松と御苑の長い築地塀が広がるばかりです。そんな中、明治天皇が離れられる前の御苑に思いを馳せることが好きです。

使いの者が馬に乗って御門を通ったり、宮司の団が収穫の儀式に來たり、新しい天皇の側室が輿に乗ってやってくる。平安京が再建されている間に天皇の別宅として始まった現在の御苑、そして元の御苑が焼失したために事実上の御苑になったという歴史を長い長い時間を越えて、御苑の建物の雰囲気から想像してみます。この上なく美しく飾られた間での將軍との謁見や何世紀にも渡る不安定な権力闘争が見えてきます。鎌倉幕府に對立していた醍醐天皇の代わり、ここに來た光厳天皇は、この御苑だ

けを使う初めての天皇でした。お可哀な後醍醐天皇は、天皇に全権力を戻すにはその登場が何世紀も早かったということでしょう。隠岐島に流されてしま



残雪

ですが、本当に彼らは楽しんだのでしょうか。將軍に操られながらの天皇になるとどうか。将軍に操られながらの天皇になるとどうか。居心地の悪いことだつたでしょうか。平安時代の典型的なイメージは歌詠みや会やお香の会ですが、幕府政治時代の御苑の地はどうだったのかと思ひ巡らせます。貴族達は権力を得ようと画策して

たのでしようか。それとも過去の栄華に思い焦がれていたのでしょうか。御苑の壁は幕府の世の問題から避難させてくれるものでした。侍が天皇を經濟的に自立させずに象徴として閉じ込めておく牢獄だったのでしようか。ですから、明治天皇



拾翠亭でのお茶会風景

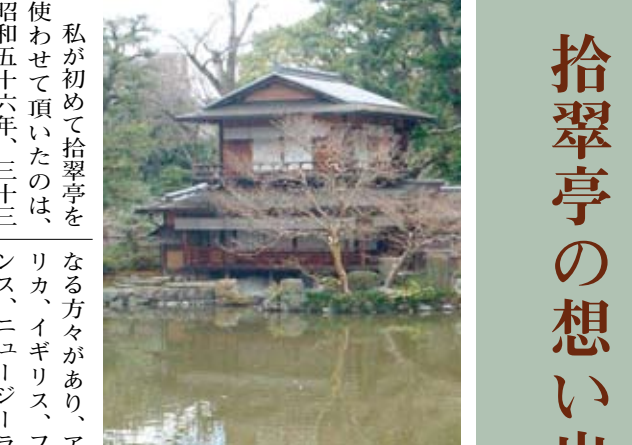
が千年後に新しい環境を求めて東京に移り、新しく築いた力を築き、新しきも理解できます。京都の資質は、天皇の故郷であることに由来する一方、天皇が離れた後のアイデンティティーの危機を乗り越えるべく、急速に近代化したことにあります。今日では、御苑は観光客や憩う地元の人たちを手をつないで散歩するカップルで賑わっています。しかし冬が訪れると、御苑の静寂に思ひます。宮中が丸ごと引越した後、京都の中心部はひっそりとしていた感じだったのでしょうか。松葉にかける音だけが聞こえる雪の降る静けさに、私は心を失い再び取り戻そうとする京都の郷愁の微かな光を感じるような気がします。

私(ペリン)が初めて拾翠亭を使わせて頂いたのは、昭和五十六年、三十三歳の年でした。若い頃より茶の湯に親しんでおり、仲間の家を持ち回りでお稽古もしていました。その頃よりお客様を呼んで会を催したくない、京都国立博物館や勤労会館他、公共の施設を茶室をお借りして楽しんでいました。そんな時、京都新聞にて拾翠亭の事を知り、申し込みを受け付けていた時は、茶の湯を知らぬ若輩者が使わせてもらって、本当に良いのかとすごく感じました。年に四回、程季節を変えて会を持ちました。さすがにクリーナーのない夏、暖房が利かない冬は厳しく、現在は春秋、流儀を離れ楽しんでいただいております。お客様は近頃はもとより、遠くは北海道、福島、新潟、金沢、東海、そして福岡からも、時には海外の方もお連れに

なる方々があり、アメリカ、イギリス、フランス、ニュージーランドやフィンランド、この方々には京都の御苑、それも普段入れない拾翠亭で薄味を味わえる一期の貴重な機会を、大いに楽しんでいただいています。最高齢はいつも来て下さる枚方のI氏八十八歳。元気な笑顔にお会いできるこちらも元気をもらえます。

神戸、金沢の昔のお嬢さん方には特に元気がです。お茶をされる方は皆元気がすよ。そして「御所でお茶をいただけるなんて」と皆様大感激でお帰りになり、丁寧なお礼のお便りやお電話をいただく、私共もつくづく有難いと思います。

ふたば会のお茶会 (代表)



冬の拾翠亭

難く幸せに思います。平成十三年に拾翠亭は改修され二階も使えるようになり、点心を差し上げる様にしております。

永年拾翠亭にお世話になっていて、数多くの失敗や楽しいエピソードがあるものです。改修される前、前日は大雨で池の水が溢れて、拾翠亭の床下まで来ました。当時の炉壇は漆喰の為に水が伝い、漏れで電熱が使えなくなり、急ぎ電氣屋さんをお願いして無事開催できました。

冷蔵庫に入れた抹茶、水屋道具や着物を持ち出すのを忘れる事などは何回もありました。ある時、柄杓を忘れて買いに走っても間に合いません。一席目は仕方なく鉄瓶を使った無茶点前、今は苦笑いの楽しい思い出です。

拾翠亭の思い出  
浅井 宗良

### 催事案内

#### ■平成25年京都御苑自然教室

一般の方を対象とした自然教室の今後の予定は、下記のとおりです。都市の中で貴重な緑をもつ御苑で、冬の自然を観察しましょう。

#### 冬の自然教室“冬の御苑にふれよう”

平成25年1月27日(日) 9:30~12:00

**主催** 環境省京都御苑管理事務所 TEL075(211)6348  
一般財団法人 国民公園協会 京都御苑  
TEL075(211)6364

**講師** 京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。  
**内容** 冬の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。

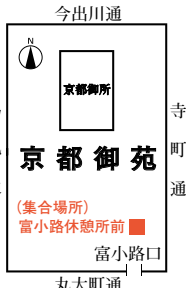
**集合場所** 京都御苑 富小路休憩所前  
(上京区京都御苑 富小路口)

**受付時間** 当日 9:00~9:20

**参加費** 保険料100円

**その他** 筆記用具をご持参下さい。  
手持ちのルーペ、双眼鏡、  
図鑑などの観察用具があると便利です。

\*以降も春、夏、秋と四季折々、自然教室を予定しています



池北側のケヤキで休むアオバト(オス)①

京都御苑の南東隅にあるトンボ池は、春から秋にかけて様々な生き物で賑わっています。冬になり、枯れたハスの中で冬越しをするガの幼虫やクモなどが見られたときには生命力を感じます。また、エ

ノキの落葉に潜むゴマダラチョウの幼虫などを見つけると、不思議な生き方にエールを送りたくありません。でも、小鳥たちのさえずりを楽しむことはできなくなり、いさなりハスの茎を掴み、池の中

## 鳥たちの小さなオアシス 西台 律子

びをしたりする姿も見られます。アオバトは、十月から五月上旬までの約七ヶ月ほど苑内で越冬し、初夏には山間に繁殖のために移動していき漂鳥です。オス(写真①)の肩羽には赤紫色味があります。メス(写真②)の肩羽は緑色です。アオバトは京都府のレッドリストでは絶滅危惧種に指定されています。種



池北側で水を飲むアオバト(メス)②

が、トンボ池周辺以外でもアラカシなどのブナ科の実が数多く落ちています。ドングリを丸呑みする姿は、とてもユニークです。他にも、ムクノキの実やヤマキの新芽をついばんだりもします。五月の連休前後には苑内でも「オーアオーアオーアオ」という不思議な声でさえずります。種



排水溝近くで水を飲むイカル

名由来は、この鳴き声とも、体の色とも言われています。生垣を飛び交う小鳥たちは、やがて次々に池南東の排水の水場に降りてきます。水を飲むものと様々です。メジロやエナガ、シジュウカラ、ヤマガラなどの混群が降りてくることもあり、ルリビタキやウグイス、シロハラ、トラツグミなどは、単独で降りてきます。異なる種類の鳥たちが息もピッタリと水浴びをしている様は平和なものですね。

群れをなしてネムノキやクサギなどに止まってから次々に降りてくるのはイカル(写真③)やアトリです。冬鳥のツグミやマヒワなどには訪れに変わりますが、イカルは冬の常連客です。「キョツキョツ」と

新島襄の妻である新島八重の生涯を描いた作品「八重の桜」が二〇一三年NHK大河ドラマとして放送されます。それに伴い、京都御苑周辺で話題になっているのが同志社発祥の地でもあり、また新島襄と八重が住んでいた自宅でもあった「新島襄旧邸」です。二〇一三年の十二月まで原則として毎週火曜日を除く毎日午前十時から十六時まで開館しています(入館受付は十五時三十分まで)。



## 富小路休憩所へのご案内

すので「豆まわし」などとも呼ばれています。春になると、山間部や北部の地域などで繁殖をするために移動していき漂鳥です。トンボ池でも「キーコー」と澄んだ声のさえずりが響き渡ります。トンボ池では、生垣で囲まれたハスやキショウブの間で、いつでも安全に水浴びができます。トンボ池は、人も生垣の外からそつと見守ってくれるかけがえのないオアシスなのです。

交流の場としても使われています。もちろん御苑散策の際、気軽に憩いの場としてご利用ください。名物の讃岐うどんは圧力釜で茹で、うまみを損なわないように一番おいしい状態で召し上がっています。特に冬限定の鍋焼きうどんは、人気のメニューの一つです。御苑周辺散策の際に、是非、富小路休憩所をご利用ください。

### 「閑院宮邸跡」見学

京都御苑南西角の創建以来の場所に建つ、「閑院宮邸跡」。収納展示室では、京都御苑の歴史や自然の資料が展示されています。苑内散策の折に是非お立ち寄り下さい。

収納展示室 午前9時~午後4時 入場無料

休館日/月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館)、年末年始

### 御苑の花暦

和名	開花期	主に見られる場所
サザンカ	11月~2月	乾御門から今出川御門に抜ける散策道周辺
ウメ	2月中旬~3月中旬	梅林
ヤブツバキ	2月~4月	近衛池周辺、母と子の森、白雲神社周辺

### 会員募集

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑  
年会費 ●普通会員 1,000円以上  
●賛助会員(会社・団体) 10,000円以上

#### 会員への特典

1. 本会発行物をそのつど送付します。(御苑ニュースは会費収入で発行されています。)
2. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)

#### ■申し込み、問い合わせ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑  
住所 京都市上京区京都御苑3  
〒602-0881 TEL075(211)6364

トンボ池は普段は自然環境保全の観点から閉鎖していますが、年に数回、一般公開をしております。公開時期は次号でお知らせする予定です。また、京都御苑では苑内各所で野鳥を観察することができます。御苑北東の母と子の森ではバードバスが設けられており、一年を通じて様々な野鳥が水場に立ち寄り、ぜひ一度おいでください。(一般財団法人 国民公園協会 京都御苑)



富小路休憩所



国民公園協会 京都御苑